

原 告 団

**遺族・C.O.裁
追求、特集号**

第一一十五号

荒尾市の選手として遠い地にまで遠出することがたびたびだった。なつて納まり、真茂さんが我が家へ帰ってきた日と重なって、見るもあわねまほとおろおろが彼の子どもを懐胎すると、その

昭和三十八年十月三十日、利恵さんは天鉱病院(三井病院)の一室で男の子を産み落とす。洋司と夫貴茂さんが冷たい遺体となつて我が家へ帰ってきた日と重なって、見るもあわねまほとおろおろが彼の子どもを懐胎すると、その

昭和三十九年十一月三日、利恵さんは天鉱病院(三井病院)の一室で男の子を産み落とす。洋司と夫貴茂さんが冷たい遺体となつて我が家へ帰ってきた日と重なって、見るもあわねまほとおろおろが彼の子どもを懐胎すると、その

昭和四十一年十二月三日、利恵さんは天鉱病院(三井病院)の一室で男の子を産み落とす。洋司と夫貴茂さんが冷たい遺体となつて我が家へ帰ってきた日と重なって、見るもあわねまほとおろおろが彼の子どもを懐胎すると、その

昭和四十二年一月三日、利恵さんは天鉱病院(三井病院)の一室で男の子を産み落とす。洋司と夫貴茂さんが冷たい遺体となつて我が家へ帰ってきた日と重なって、見るもあわねまほとおろおろが彼の子どもを懐胎すると、その

昭和四十三年二月三日、利恵さんは天鉱病院(三井病院)の一室で男の子を産み落とす。洋司と夫貴茂さんが冷たい遺体となつて我が家へ帰ってきた日と重なって、見るもあわねまほとおろおろが彼の子どもを懐胎すると、その

はるかな道

**遺族・稻垣利恵さんの
若い未亡人**

だから、いま三十二才。

細面に、涼しい目鼻立ち。体もすんなりとしていて、いまやさえ

三池大災害遺族——稻垣利恵

その後

月十日。奇しくも、一年後には

夫貴茂さんが冷たい遺体となつて

我が家へ帰ってきた日と重なって、

いるじともまた、不思議でならぬ

い。

とまれその頃——二人は大平田

センターコーナー(荒木栄がまだ健

在だった)に所属。先輩・後輩の

間がらで、あの三池闘争にはうた

じて……」とは、利恵さんの実母

久代さんの述懐。うれしさと安心

が、とたんに泣きだしてしまいま

した。

が、とたんに泣きだしてしまいま